

富山・小出城跡

- | | | |
|---|---------------|------------------------------|
| 1 | 所在地 | 富山市水橋小出 |
| 2 | 調査期間 | 二〇〇五年度調査 二〇〇五年（平17）八月～一
月 |
| 3 | 発掘機関 | 富山市教育委員会埋蔵文化財センター |
| 4 | 調査担当者 | 大野英子・野垣好史・久保浩一郎 |
| 5 | 遺跡の種類 | 城館跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 古代～近世（中世後期が主体） |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

小出城跡は、富山市東北部の標高約三mの低湿地帯に立地する。



文献史料には天文一四年（一五四五）から天正一年（一五八三）までの間に
関係する記述がみえ、城の
およその位置が推定されて
いた。そしてこれまでの小
規模な発掘調査や試掘確認
調査によって、部分的では
あるが堀が確認されていた。

今回の調査は二〇〇三年度から行なってきた道路改良工事に伴う発掘調査の一環で、これら一連の調査によって城の位置や構造の一端が明らかになりつつある。

二〇〇五年度は東西二カ所の調査区で、計約二六〇㎡の発掘調査を実施し、前年度までに確認されていた二条の堀の広がりを検出した。東調査区では東西方向の堀、西調査区では従来の南北方向の堀に加え、それに直交して分岐する東西方向の堀の存在が明らかとなった。遺構検出面における堀の規模は、東調査区の堀が幅約一三m、深さ約一・二―一・八m、西調査区の堀が幅約五m、深さ約〇・五m―一・〇mである。西調査区では井戸・土坑も検出されている。

遺物は、堀を中心に、中世土師器、珠洲・瀬戸美濃・青磁などの陶磁器、漆塗椀・下駄・たも網の枠・曲物などの木製品、鋤先・鉛玉などの金属製品、五輪塔などの石製品が多数出土した。低湿地という遺跡の立地上、木製品の出土が顕著である。遺物の時期は中世後期が主体であるが、堀の埋土上層からは近世陶磁器が出土しているため、埋没は近世以降と考えられる。木簡は西調査区の南北・東西方向の堀の分岐点付近の埋土上層から一点出土した。

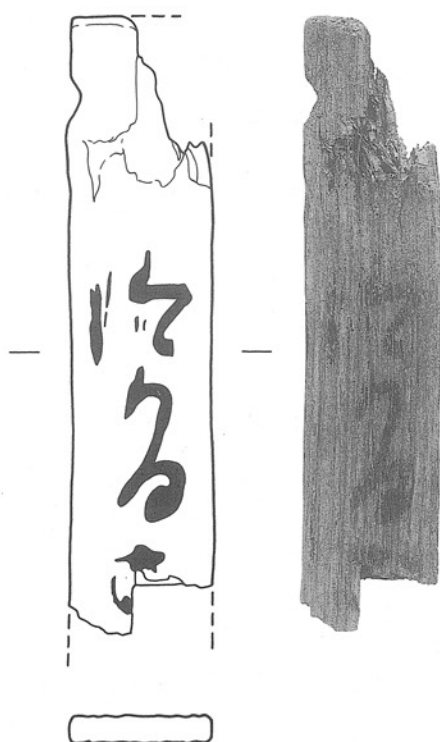
8 木簡の釈文・内容

(1)

「
く
□^{「つ}
かる^{カ」}
□

(102) $\times 23 \times 4$ 039

上部左側に切り込みが認められるが、右側は欠損、下部も欠損の



ため原形は不明である。樹種はヒノキ科アスナロ属である。

なお、釈読にあたっては、奈良文化財研究所の渡辺晃宏・吉川聡・山本崇各氏のご教示を得た。写真は同研究所の中村一郎氏による。

9 関係文献

富山市教育委員会『富山市小出城跡発掘調査報告書』（二〇〇七年刊行予定）

（野垣好史）

新潟・春日山城跡

かすがやまじょう

- 1 所在地 新潟県上越市大豆字春日山ほか
- 2 調査期間 一九八四年（昭59）七月～十二月
- 3 発掘機関 上越市教育委員会
- 4 調査担当者 小島幸雄
- 5 遺跡の種類 城郭跡
- 6 遺跡の年代 中世・近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（高田西部）

春日山城跡は、高田平野東縁に南北に連なる西頸城丘陵の一角に築かれた広大な中世城郭遺跡で、戦国大名上杉謙信の居城として著名な山城である。その築城時期については諸説あるが、永正七年（一五一〇）に長尾為景による大普請があったとされており、少なくとも永正年間以前には山城として機能していたようである。城の居城化は、永禄三年（一五六〇）に始まる謙